
ポスター発表 | 医薬品情報、IT化

[P28] ポスター発表28

医薬品情報、IT化

2017年10月8日(日) 16:00 ~ 17:30 ポスター会場12 (東京国際フォーラム G棟地下2階 セミナー室 (2))

[P-12-545] 調剤業務トータル支援 ITシステムの開発 (第29報)

ITシステムによる医薬品在庫管理 (薬価改定時の対応)

○吉川 香奈美¹, 南 陽介², 関原 弘喜², 片寄 勝邦², 梶田 賢司², 宗本 忠典², 中村 信也³, 中室 克彦⁴ (1.すずらん薬局, 2.株式会社 クカメディカル, 3.東京家政大学家政学部, 4.摂南大学 [奈良県])

【目的】当薬局グループは調剤エラーを未然に防ぐ調剤業務トータル支援 ITシステム(以下 ITシステム)を導入し、調剤ミス低減化、在庫管理をはじめとする業務の効率化を実践してきた。前回の本学術大会で演者らは、ITシステムがレセコン入力ミスの原因とした調剤過誤における発生防止に寄与する可能性を示唆することを報告した。

今回我々は、日常の調剤業務における医薬品の在庫、入出庫ならびに発注などの医薬品在庫管理情報が自動的に保存される ITシステムを活用し、薬価改定前後の在庫金額損失の現状を算出することにより、在庫金額損失低減化対策の効果について分析、検討を行ったので報告する。

【方法】内科診療所門前薬局(1日平均処方箋枚数73.5枚。採用品目数約1,200)において ITシステムに保存されている在庫データ(2015.4~2016.3 12か月間)を用いて、月末在庫金額の推移を分析、検討した。

今回、2016年度の薬価改定に合わせて、2016年3月末在庫金額の目標額を決算月(2015.7)在庫金額(8,809千円)とした。日々の医薬品在庫管理のデータにより ITシステムによって算出される発注数量などを参考に、自動発注に加えより適正な在庫状態になるようマニュアル操作を併用して発注業務を行い、可能な限り在庫金額を圧縮し、目標額を下回るようにした。

期間内の月平均在庫金額を算出し、薬価改定前後の在庫金額等と比較し、在庫金額損失の防止効果について分析、解析を行った。

【結果】2016年3月末在庫金額は6,738千円。薬価改定後(2016年4月1日)在庫金額は、6,235千円であった。薬価改定による損失額は503千円となり、約7.5%であった。調査期間内における月平均在庫金額は、9,368千円。改定時と同様の割合(7.5%)の損失額であったと仮定すると、703千円となる。今回の損失低減化対策により、その実際の低減効果は200千円となった。

【考察】ITシステムを活用した医薬品在庫管理において薬価改定時在庫金額の目標額を設定することにより、薬価改定時の在庫金額の損失低減化に対して一定の効果が認められた。

今後、薬価改定は毎年行われることが見込まれており、改定時の損失額をいかに低減するのかは保険薬局運営上、非常に重要となることが予想される。

以上より、ITシステムによる医薬品在庫管理と発注システムは、薬価改定時の在庫金額損失に対する低減化効果に貢献できることが示唆された。

【キーワード】ITシステム、薬価改定、医薬品在庫管理